

標題 島根県オリジナルメロン「ゴールデンパール」の出荷開始

(ダイジェスト)

松江市の揖屋干拓地内で1戸の農家が「ゴールデンパール」の栽培を行っており、7月5日から出荷が始まりました。このメロンは、黄色い果皮と白い果肉、食べたときの滑らかな舌触りと上品な甘みが特徴ですが、栽培や流通販売などの課題もあることから、関係機関と連携しながら対策に取り組んでいます。

「ゴールデンパール」は、島根県で開発された品種で、食味は高い評価を得ていますが、栽培が難しく安定した出荷が見込めないこと、保存期間が短く店頭販売には向かないこと、生産量が少なく知名度が低いことなどの課題があります。そのため、今年は農家と普及部の栽培担当と6次化担当、主な販売店、松江市や農業技術センター技術普及部等が、栽培から販売までの情報共有を行うことにして、ハウスを2棟増やした6棟（10a）で栽培を開始しました。

栽培においては、今年度、松江市スマート農業導入支援事業を活用し、ハウス2棟に温湿度に連動した自動開閉を行うシステムを導入して、低温期の温度管理の徹底を図っています。また、定植を一週間ずらし、出荷も含めた作業が集中しないような栽培を試みました。

出荷は、収穫から食べ頃までの期間が短いことから、販売店等からの注文に応じて、収穫後すぐに農家から直送しています。販売店の他、松江市のふるさと納税の返礼品にも使ってもらっています。昨年までは、メロンの出荷箱に食べ頃の見分け方等を記したリーフレットのみを入れていましたが、今年は栽培状況の写真や農家のメッセージを加えました。さらに認知度向上のため、普及部がSNSを活用して栽培の過程を写真で見られる提案を行い、そのQRコードも記載しています。その外、付加価値向上の1つとして、メロンのネットを活用して文字を入れる体験を試みました。

規格外品の有効活用については、昨年度、県しまねブランド推進課のアドバイザーから提案のあったメロンソーダを商品化したところですが、計画以上の注文に応じきれない状況となっており、今後はその対策も検討する予定です。



【左写真】  
文字を入れたメロン

【右写真】  
SNS用の写真撮影の様子